

一人ひとりを大切にする具体的な保育

1

乳児の保育を「丁寧にする」

ユリア
愛知県碧南市・へきなん保育園園長

「一人ひとりを大切にする具体的な保育」って、いったいどういう保育なのでしょう。まず、乳児についての話をしたいと思います。

難しいことではないです。特別なことでもないです。毎日、どの園でも必ず行われていることを「丁寧にする」ことです。具体的な事柄としては、食事・排泄・衣服の着脱などです。

1 少人数で食事を進める

皆さんの園では、食事をどのように進められていますか。私の園では、一人ひとりを大切にする具体的な保育に気づくまでは、かなり食べこぼしがあり、床が汚れないように敷物を敷いて、一日の中でとても忙し

く慌ただしい時間になっていました。そして、その後も食べこぼしの片づけをしながら、全員をトイレに行かせ、盛大にトントンをして寝かしつける。身体の中のどこに入ったかわからないぐらいの勢いで、保育士も子どもと一緒に食事を摂り、気持ちは子どもたちの食事をよく見ているつもりでも、一緒に食べているがゆえに、物理的に丁寧を介助することとは程遠い状況がありました。

そうした状況の中で、保育士は子どもと一緒に食べず、子どもも一斉には食べず、一人とか二人とか個別に手助けして食べるという方法に出会いました。

最初、そのことを聞いた時には、保育士も私も、そんなことはとても無理だと思いました。そんな一人とか二人とかで進めていたら時間が足りないし、保育士も一緒に食べてしまわなければ、その後のトイレや寝かしつけ、連絡帳や記録を書かなければいけないので、とても時間が足りないと思いました。しかし、保育士から「どうしま

しよう」と相談された時、私も「そんなの無理だよね」といつつも、「でも、じゃあ実験してみる？」と投げかけてみました。そして、今までのような食事にかかる時間と、一人とか二人の少人数で食事を進めた場合の時間を計ってみることにしました。実験の結果、かかった時間は、なんとほぼ同じでした。「それなら、少人数で丁寧にかかわったほうがよいね」ということになり、そこから丁寧な食事の時間のかかわりが始まりました。

この取り組みは、一クラスから始まりました。始めてみると、子どもたちはとても落ち着いて、食べこぼしもなくなりました。その様子を見ていた他のクラスも、見よう見まねで、一斉での食事から丁寧な食事へと変わっていききました。そして変わっていく中で、まず食べる順番を決め、毎日同じ保育士が同じ順番で、同じ手順を進めるようになりました。

この「毎日、同じ順番で行う」ことが、具体的に丁寧な食事の手助けをするということになるのです。グループとか皆で食事を進めるのではないのです。

まず、食事を進める人数は、必要な手助けをするには何人だったらできるのかを考え、決めていきます。そして、「今日は、あなたはどれくらい食べられる？」という

●食べている子、遊んでいる子、寝ている子がいます
(4月12日の1歳児クラス)



ことを聞きながら、目の前で盛りつけをしていきます。
毎日同じ順番で進められることで、子どもにとっても自分自身で生活の見通しが立てられるようになります。それは、0歳児であってもできることです。
つまり、日々自発的に生活が営まれるということなのです。そして、「今、あなたはどれくらい食べられる?」と問われることで、自分の意志で何をどれくらい食べるのか自己決定しているということなのです。さらにその中で、自分の身体にも耳を傾けていると

●表1

生活についてのアンケート

記入例

AM 6:00	起床	
7:00	○ 食事	
8:00		
9:00		
10:00	○ おやつ	
11:00		
12:00	● 食事	
13:00	//// 睡眠	
14:00		
15:00	○ おやつ	
16:00		
17:00		
18:00	△ 食事	
19:00	○ お風呂	
20:00		
21:00	//// 睡眠	
22:00	//// 睡眠	
23:00	//// 睡眠	
24:00	//// 睡眠	

日差しも暖くなり、入園を心待ちにお過ごしのことと思います。園での生活に向けて家庭での様子をお聞きしたいと思います。
記入例を参考に記入ください。

食事について
食べ方、好き嫌い、その他何かあれば詳しくご記入ください。

排泄について
自立しているかどうか。その他何かあれば詳しくご記入ください。

睡眠について
お家でどのように寝ているかをご記入ください。

その他
もし何かあればご記入ください。

書いていただいた事を参考に、ひとりひとりが安心して過ごせるように配慮していきたいと思っています。

- 排泄 (トイレ)
- 排便 (トイレ)
- △ 排泄 (オムツ)
- ▲ 排便 (オムツ)
- //// 睡眠

歳児 氏名

ということなのです。
本来食べるということは、自身が生きていくのに必要なものを知って食べるということ、知識として栄養のことを伝えたり、知ることは有益なことですが、自分にとって必要なものを知ることのほうが重要なことではないかと、私は考えます。生きていく力ということなのです。
丁寧にかかると、食べこぼしはなくなります。ここにもまた落とし穴があるので

すが、こぼさないように何かをするわけではありません。こぼさせないために食べさせてしまうということではありません。結果としてこぼれないのです。また、子どものことが具体的によく見えるようになるので、□の動き、手の動きなどもよく確認でき、それに合わせての手助けができます。とてもきれいに食事が摂れるようになります。食事のマナーがよいということは一生の宝になります。



● 0歳児フラスの遊び

2 子どもが食事を摂る順番を決める

では実際に、子どもが食事を摂る順番はどのように決めるのでしょうか。私の園では、入園前の子どもの24時間の生活リズムを把握し（55ページ・表1）、本人の育ちの様子を考え合わせて担当を決め、そして担当が順番を決めていきます。決めた順番は原則的には変えません。毎日繰り返しされることで、子どもにとっては生活の見通しがたち、情緒の安定につながります。

年度が変わって新しい1歳児フラスで、

担当が食事の準備をすると皆寄って来てしまつ状況があり、保育士から「柵を作っていいですか」と質問がありました。私は「いいんじゃない」と答えました。大人がきつぱりと落ち着いていれば、子どもは飲み込みが早いようで、柵は直に必要ななくなりませんでした。そして、子どもたちは呼ばれてからやって来るのではなく、遊んでいるおもちゃを片づけ、絶妙なタイミングを見計らって自分で食事の席に着きます。大人が声を掛けるより素晴らしいタイミングでやって来るのです。

また、子どもが食事のテーブルに寄って来てしまつということから考えたほうがよいことがあります。子どもたちの遊びの環境についてです。

3 遊びの環境を整える

皆さんは、一人または二人とかの少人数で食事を進める場合、他の子はどうしているのか疑問に思いませんか？実は、子どもたちは待っているのではなく、夢中になって遊んでいるのです。

丁寧な保育の具体的な場面として、まず食事のことから取りあげましたが、実はその前に、遊びの環境を整えることが第一です。

保育園・こども園なんだから、おもちゃ

もあるし、遊べるに決まっていると思いませんか？私はそう思っていました。「お人形？10体ぐらいありますよ。園全体でね」「玩具？もちろんありますよ。しまつてありますけどね」「いつも散らかつた部屋ですごすことはよくないと思いますから、すっきりとした保育室で子どもたちはすごしています。まあ集団だから、そんな感じで仕方ないかな」と思っていました。

絵本を出せばそれが、積み木代わりに立てられたり、線路代わりに子どもが踏んで歩いたりしていました。そして保育士が「お壁さん」といって、壁際に全員を座らせて本を読み聞かせるといった保育をしていました。

つまり、保育士が主導権を握り、子どもたちを管理している状態でした。しかしその状態でも、子どもたちを一人ひとりをよく見て、おまけに背中目をつけて保育をしているつもりでした。よく見るという意味が、怪我などしないように管理するためによく見ている、という状態だったと思います。

そう、子どもたちのことを信頼していなかったということです。

もちろんそんなつもりはなかったのですが、そのような状態から遊びの環境を整える作業が始まりました。きっかけは、当時、

●写真①、②とも、1歳児クラスの遊び。それぞれが夢中になって遊んでいます



①

名古屋コグアイセンターからわらわうたの講師として来ていただいた神谷良恵さん、牧村郁子さん、そして現在、くるみの木教育研究所主宰の町田千秋さんのアドバイスによるものでした。そうしたアドバイスの園長の私がとても懐疑的で、「たくさん玩具を出してしまうのは散らかってしまいうから」と一番の抵抗勢力でした。

しかし、たくさんの種類と充分な量の玩具を準備して、そこで遊ぶ子どもの姿を見るうちに、とても必要なことであることが理解できました。そこで、食事の時も一ク

ラスから始まりましたが、遊びの環境を整える時もやってみたいというクラスを募集したところ、2歳児の1クラスが手をあげたので、そのクラスから集中的に遊びの環境を整えていきました。その後はそのクラスを見ながら、まわりのクラスも見よう見まねで環境を変えていきました。とりあえず、倉庫に入っていた玩具はすべて出払い、その後手作りできるものはすごい勢いで作り、また「100円ショップ」で調達できるものもあるだけ買い…という状態が続きました。



②

遊び環境を整えて、子どもが遊びを選んで集中できるように遊びを守っていく。それと同時に、一斉での声掛けをやめ、用事がある時は用事がある子の近くに行つて言葉を掛けるといったことを実践していきました。するとどうでしょう。その2歳児が3歳児になった時、「あら、この子たちすごく話がよく聞けるね」「4、5歳児の子どもたちより聞ける!!」と、保育士たちが実感したのであります。



●2歳児クラスの食事と遊び